



2025年2月7日

各 位

会社名 イシン株式会社
代表者名 代表取締役社長 片岡 聡
(コード番号：143A 東証グロース市場)
問合せ先 取締役 丸山 広大
(TEL 03-5291-1580)

2025年3月期 第3四半期決算において高い関心が予想される事項について

2月7日に発表しました「2025年3月期 第3四半期決算短信」及び「2025年3月期 第3四半期決算説明資料」に関して、想定されるご質問及びその回答をまとめましたので、以下のとおりお知らせいたします。

記

Q. 第3四半期決算における業績は、前年同期比で増収・減益となりましたが、主な要因を教えてください。

A. 第3四半期の売上高は前年同期比 4.3%増の 922 百万円となり、公民共創事業が成長をけん引いたしました。同事業の主力サービスである「BtoG プラットフォームサービス」の高単価プランが好調に進捗したことが主な要因です。また、グローバルイノベーション事業においても、11月に開催された「New Japan Summit 2024 Tokyo」のイベントスポンサーの受注が好調に進捗した点に加え、12月末時点の一時的な円安進行の影響を受け、当社の子会社である Ishin USA Inc.の売上高が円換算で増加したことも寄与いたしました。

一方で、業務委託費や採用費など、事業成長のためのコストが増加した影響で、営業利益は前年同期比 19.8%減の 104 百万円となりました。

Q. メディア PR 事業の第3四半期の売上高が前期を下回った要因を教えてください。

A. 第4四半期の 2025年3月に開催を予定している「Best Venture 100 Conference Spring 2025」のイベントスポンサーの営業に注力をしたためです。第2四半期の 2024年9月に開催した「Best Venture 100 Conference Autumn 2024」では、スポンサー売上が過去最高を記録したことから、同サービスのニーズが非常に高いと判断し、営業リソースを集中いたしました。その結果、売上計上のトレンドがずれたことで、第3四半期は前期を下回りました。なお、3月のスポンサー売上に関する受注は好調に進捗をしております。

Q. 通期の業績予想に対して、売上高・営業利益共に第3四半期の進捗率が想定を下回った主な要因を教えてください。

A. 主要因は、公民共創事業の売上高が想定を下回ったためです。第2四半期に営業人員を積極的に採用したことで、一時的にマネジメント工数が増加し、伴い主要顧客へのアプローチ量が減少いたしました。なお、担当顧客の見直しを図ったため、営業人員の生産性は改善傾向にあり、第3四半期の受注は当初計画を上回る結果となりました。また、成長戦略の一つであるソリューション開発についても、BtoG 領域での営業 BPO サービスの案件が増加しており、伴う受注も堅調に進捗しております。

営業利益の進捗率が想定を下回った主な要因は、売上高が計画を下回ったためです。一方で、費用面は当初の計画通りに推移しており、大きな変動はありません。

Q. 2025年3月期の通期の業績予想は達成を見込むとのことですが、その要因を教えてください。

A. 売上高については、第4四半期で大型のソリューション案件の増加を見込んでおり、当初の第4四半期の計画を上回る見通しとなっております。また、通期の業績予想に対して、97.2%にあたる約1,316百万円はすでに受注済みの案件で構成されており、受注見込みについても、確度が高い見込み案件が順調に積みあがっております。

一方で、為替相場の変動はリスクとして認識しており、期末時点で円高が進行した場合、Ishin USA Inc.の売上高が円換算で減少し、売上高に影響を及ぼす可能性がございます。

これらの状況を踏まえつつ、通期目標の達成に向けた取り組みを続けてまいります。

営業利益については、まず当社の収益構造として、売上総利益率が70%を超える水準であり、売上高の増加に伴い、売上総利益も増加する構造となっております。先述のとおり、第4四半期の売上高は当初の計画を上回る進捗を見込んでおり、伴い売上総利益も伸長する見込みです。また、費用面においても、大きな投資を見込んでおらず、前四半期と概ね同水準の見通しとなっているため、売上総利益の増加に伴い営業利益も大幅な増加を見込んでおります。

なお、為替相場の変動による営業利益への影響は限定的であるため、利益達成におけるリスクは低いと判断しております。

2025年3月期 第3四半期（累計）決算概要 | 通期業績予想に対する進捗率及び見通し

第4四半期に売上高の伸長、伴い通期業績予想は売上高・営業利益共に達成を見込む

- 売上高は3Q累計では計画を下回ったものの、4Qは計画を上回り、通期では計画達成の見込み。
- 営業利益も計画達成の見込み。売上高増加に伴う売上総利益の大幅増、コストも大きな投資を予定しておらず、4Qで大幅増益を見込む。



【売上高の見通し】

- ・ 4Qは大型のソリューション案件の売上増加を見込んでおり、当初の4Q計画を上回る見通し。
- ・ 通期の業績予想に対して、既に97.2%が受注済案件となっており、先行指標となる受注が好調に進捗している。
- ・ 残りの受注見込みについても、ソリューション案件を中心に確度の高い案件が複数あり、現時点では計画通りの着地を見込む。

【営業利益の見通し】

- ・ 売上総利益率が70%を超える収益構造のため、売上高の増加に伴い、売上総利益も大きく伸長する見込み。
- ・ また、費用面についても、現時点で大きな投資を予定しておらず、前四半期と同水準を見込んでいることから、売上総利益の増加に伴い、営業利益も大幅に伸長する見込み。

(※1) 第3四半期累計実績及び2025年2月5日時点の受注状況を元に算出。

(※2) 契約済みかつ期末までの納品を予定している売上高であり、納品が確認された場合は計上タイミングが翌期へずれる可能性がございます。またSTOCK売上の一部は、過去の解約率の実績を元に試算しております。

(※3) 商談が進捗している案件及び新規開拓案件から見込む売上高を記載。

Copyright© 2025 ishjin Co.,Ltd. All Rights Reserved.

12

(2025年3月期 第3四半期 決算説明資料 P12)

Q. 今後3か年ベースの中期経営計画の開示は検討されていますか。

A. 中期経営計画の開示につきましては、経営方針や成長戦略を投資家の皆様にお伝えする上で重要な手段であると認識しております。中期経営計画を開示できる状況になりましたら、速やかに開示をさせていただきます。

<ご参考>

- ・ 2025年3月期 第3四半期 決算短信〔日本基準〕(連結) 2025年2月7日公表
- ・ 2025年3月期 第3四半期 決算説明資料 2025年2月7日公表

以上

免責事項

- 本資料は、当社の企業説明、決算説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。
- 本資料に記載される情報は、本資料公表時点における当社の見解であり、将来に関する記述につきましては、今後様々な要因により変動する可能性があります。